

# JA全厚連情報



雨宮勇氏旭日中綬章受章祝賀会を開催

# 目 次

- 令和6年度税制改正要望等について報告  
事業企画委員会・実務者PTを開催 1
- 財務会計の知識について研修  
厚生連経営管理職層育成研修会（基礎編第1クール）をWEB開催 2
- 農業・農協の発展のために尽力  
雨宮勇氏旭日中綬章受章祝賀会を開催 3
- 理事・監事を選任  
第75回通常総会等を開催 6

## ・通信員だより

- 認知症カフェを開催しました（苫前厚生クリニック） 10
- 新人研修「リフレッシュ研修」を開催して（大曲厚生医療センター） 11
- 通常総会を開催（JA秋田厚生連） 12
- ダイナミックフェア2023に参加（JA茨城県厚生連） 14
- 真鍋診療所リニューアルオープン（土浦協同病院附属真鍋診療所） 15
- 院内保育所にて野菜の苗植えを行いました（相模原協同病院） 16
- BSC スプリングレビューを開催（保健福祉センター） 17
- 管理部総合職2年目職員研修会を開催しました（JA長野厚生連） 18
- 長野県A・コープから車いすを寄贈いただきました（JA長野厚生連） 19
- 2023年度 幹部看護・介護職員育成研修会を開催しました（JA長野厚生連） 20
- 南長野医療センター篠ノ井総合病院新病院整備第2期工事 竣工式（JA長野厚生連） 22
- 管理部総合職3年目職員研修会を開催しました（JA長野厚生連） 24
- 胸部低線量CT検診車を導入（JA長野厚生連） 25
- エコ活動への取り組み（JA静岡厚生連静岡厚生病院） 27
- 静岡県厚生連看護専門学校建設工事起工式を実施（JA静岡厚生連） 28
- クラスター発生時の看護師派遣に対する感謝状をいただきました（豊田厚生病院） 29
- 看護師の特定行為研修修了式と開講式を行いました（海南病院） 30



©よい食プロジェクト

全国厚生農業協同組合連合会  
〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル  
TEL(03)3212-8000 FAX(03)3212-8008  
E-Mail: jigyounei@ja-zenkouren.or.jp  
(事業運営支援グループ)  
<http://www.ja-zenkouren.or.jp>  
編集責任者 中村 純誠



## 令和6年度税制改正要望等について報告

### 事業企画委員会・実務者PTを開催

本会は7月6日に、東京・大手町のJAビルにおいて、事業企画委員会（医療事業部門 実務者PT）を開催した。

令和5年度の事業企画委員会は医療事業部門に「実務者PT」及び「医師PT」の2つの専門部会を設けることとし、「実務者PT」は、厚生連の常勤役員6名で構成し、厚生事業の課題解決策や事業の方向性等について検討いただくこととしている。

会議では、（1）農民の健康を創る会現地視察報告、（2）令和6年度税制改正要望、（3）経営支援に係る取組み、（4）本会の役員選任手続き、（5）債権者集会の結果（6）令和4年度（第75年度）貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案、注記表および事業報告一等について報告した。

（1）に関して、物価高騰への対応や入院患者有償病床割合の見直しを要望事項としていることから、新型コロナウイルス感染症対応時の状況について、現地で確認することを目的に、JA愛知厚生連・江南厚生病院にご協力いただき、自由民主党議員連盟「農民の健康を創る会」の現地視察を行うとともに、厚生労働省と農林水産省も参加し、意見交換を行った。

意見交換では、本会から有償病床割合の見直し等について要望し、視察に参加した宮下幹事長からは「4つの要望項目について、それぞれ何とかしなければならないという思いを新たにした。問題解決のために、しっかり頑張りたい。」との発言があったことを報告した。

また、（2）に関しては、令和6年度税制改正要望への現在の取組状況を報告し、今後の政府及び本会のスケジュールについて共有した。あわせて委員会終了後に依頼することとした調査について説明し、協力を依頼した。

委員からは、今後のスケジュールや実施予定の調査内容について、意見等が出された。

## 財務会計の知識について研修

### 厚生連経営管理職層育成研修会（基礎編第1クール）をWEB開催

本会は7月20日、21日の両日、厚生連経営管理職層育成研修会（基礎編第1クール）をWEBで開催し、17厚生連から54名が参加した。

本研修会は、将来、病院・施設の運営及び管理を担う事務職を対象に、経営管理に必要な財務知識の習得とマネジメント能力の向上を図るとともに、研修参加者相互の情報交換・ネットワーク作りを目的として、平成23年度より開催している。

研修会の形式は、講義・演習・グループディスカッションで構成しており、第1クールでは、財務会計の知識をテーマに、①簿記の基礎、②貸借対照表の読み方、③損益計算書の読み方、④キャッシュフロー計算書の読み方、⑤財務諸表の読み方について研修を行った。

1日目は、簿記の基礎を中心に、貸借対照表と損益計算書の相互関係や、取引の仕訳処理や損益計算書・貸借対照表の読み方について演習を行った。

2日目は、キャッシュフロー計算書の読み方について、キャッシュフロー計算書の各表示区分の持つ意味を学び、黒字倒産の実例をもとに、損益計算書だけでは企業の健全性は判断できないこと、間接法によるキャッシュフロー計算書の作成について研修を行った。また、財務諸表の読み方について、グループに分かれてディスカッションを行い、各グループより報告を行った。

参加者からは、「これまで経理の経験はないが、研修全体を通して大変勉強になり、経理の理解ができた」「キャッシュフロー計算書が苦手だったので、参考になった」等の感想が寄せられた。

次回（基礎編第2クール）は、財務分析の知識をテーマに、10月26日、27日の開催を予定している。

「会計」とは、企業が行った取引やその結果を整理要約することをいいます

会計の役割＝企業の行った活動を把握する＝事業活動を可視化（見える化）する

> 会計は、利害関係者に説明するために利用され、企業の事業を見る化します

事業活動を見える化した書類を「財務諸表」といいます。

事業活動		簿記	会社の成績表＝財務諸表 事業活動の見える化		説明	利害関係者
仕入	設備投資		売上	10,000		
販売	採用	仕入	4,000			
	販売促進	広告宣伝費	50			
	etc.	建物*	5,000			
		.	.			
		.	.			
		.	.			

すべての活動が一目でわかるようになる

\*例えば、株主や出資者、投資家、その他銀行や取引先などが利害関係者になります。  
\*銀行は、その会社にお金を貸すかどうかの判断材料とします。  
\*取引先は、その会社と取引を継続して関連しないかの判断材料とします。

© 2023. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.

研修の様子

## 農業・農協の発展のために尽力

### 雨宮勇氏旭日中綬章受章祝賀会を開催

本会は7月24日、東京・紀尾井町のホテルニューオータニ「鳳凰の間」にて経営管理委員会の元会長雨宮勇氏の旭日中綬章受章祝賀会を開催した。国会議員、JA厚生連及びJAグループ関連団体等から約100名が出席した。

雨宮氏は、昭和43年に地元の木曾農協に入組し、平成11年に諏訪みどり農協・信州諏訪農協の営農担当理事への就任後、平成23年に同農協の代表理事組合長への就任を経て、令和2年5月に同農協の会長を退任するまでの間、JAの役職員・農協人としては52年余にわたり、JA役員としては、21年余の長きにわたり、農業振興・農協運動の実践に努めた。平成28年からは、JA全中理事並びにJA全農の経営管理委員を務めたほか、同年に本会経営管理委員に就任されている。

翌29年からは、本会会長を務め地域医療の維持・発展に強いリーダーシップを発揮された。

祝賀会は、主催者を代表して本会の山野徹・代表理事会長が挨拶に立ち、続いて来賓として、自由民主党議員連盟「農民の健康を創る会」会長の森山裕・衆議員議員、野村哲郎農林水産大臣、後藤茂之内閣府特命担当大臣が挨拶に立ち、氏が在任期間中に発生した新型コロナウイルス感染症への対応として、病院においてマスクなどの医療資材不足や経営悪化などの課題が山積する中、医療業界としっかり連携するなど卓越したリーダーシップにより、政府、自民党に対する要請活動にも取り組んでこられ、その結果、今日に至るまで新型コロナウイルス感染症対応を継続することができたことと述べ、功績を称えた。また、中家徹・JA全中会長からも祝辞を賜った。

雨宮氏からの御礼の挨拶では、未知の新型コロナが発生し、最初に厚生連病院が受け入れ、様々な困難が伴ったことを振り返りつつ、「今日あるのは、5万人余の厚生連の皆さん、農民の健康を創る会の先生方、地域医療を守る病院協議会の先生方のおかげであり、JAグループの皆さん、厚生連関係の皆さんの代表としての受章だと受け止めている。今後ともJA、地域のために尽くしていきたい」と述べた。

最後に、菅野孝志・JA全中副会長の発声で万歳三唱が行われ、祝賀会は盛会のうちに閉会した。





森山裕先生 挨拶



野村哲郎農林水産大臣 挨拶



後藤茂之内閣府特命担当大臣 挨拶



中家徹・JA全中会長 挨拶



万歳三唱



金田勝年先生 挨拶



宮下一郎先生 挨拶



藤木眞也先生 挨拶



島村大先生 挨拶



宮腰光寛先生 挨拶



雨宮氏(左)と主催者



主催者 挨拶



長澤豊・JA 全農前会長 挨拶



前田隆・JA 全厚連元副会長 挨拶

## 理事・監事を選任

### 第75回通常総会等を開催

本会は7月25日、東京・大手町のJAビル「401会議室」において第75回通常総会を開催した。

総会の開会にあたり、山野徹・代表理事会長が挨拶をした後、来賓として、自由民主党議員連盟「農民の健康を創る会」の会長代行の金田勝年・衆議院議員並びに中家徹・JA全中代表理事会長より祝辞をいただいた。

引き続き議事に入り、第1号議案「令和4年度（第75年度）貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案、注記表および事業報告の承認に関する件」、第2号議案「理事の選任に関する件」、第3号議案「監事の選任に関する件」、第4号議案「令和5年度役員報酬に関する件」、第5号議案「退任役員に対する役員退職慰労金の支出に関する件」を上程し、全会一致でいずれも承認された。

また、本総会では、新型コロナウイルス感染症拡大の中、令和4年7月に導入した理事会において、活発な意見交換や協議等が行われてきたことを踏まえ、代表監事を新たに選任することとなった。

議事に引き続き、令和5年度の課題に係る決議文の採択を行い、①JA厚生連と緊密に連携し、厚生連病院が組合員・地域住民へ医療サービスを安定して提供できる円安・原油価格の高騰による物価高騰への対応及び②有償病床割合の見直しについて、全力で取り組むことをJA茨城県厚生連の八木岡努会長が読み上げ決議された。（決議文の内容は9頁のとおり）

本総会後の理事会において、長谷川浩敏代表理事会長（JA愛知厚生連）及び神農佳人副会長理事（JA長野厚生連）を選任し、中村純誠代表理事理事長（学識経験者）が再任となった。また、本総会から監事を1名増員し、理事会終了後の監事会において、平岡武代表監事（JA山口厚生連）が選任された（新役員体制の一覧は8頁のとおり）。





祝辞を述べる金田勝年・衆議院議員



祝辞を述べる中家徹・JA全中代表理事会長



挨拶をする山野徹・代表理事会長



決議文を読み上げる八木岡努・JA茨城県厚生連会長

## 【役員体制】

## JA全厚連・新役員体制一覧

代表理事会長 長谷川 浩敏（新任・JA愛知厚生連 経営管理委員会会長）

副会長理事 神農 佳人（JA長野厚生連 経営管理委員会会長）

代表理事理事長 中村 純誠（学識経験者）

理事 西本 護（新任・JA北海道厚生連 代表理事会長）

理事 管野 啓二（JA福島厚生連 経営管理委員会会長）

理事 八木岡 努（JA茨城県厚生連 経営管理委員会会長）

理事 平本 光男（新任・JA神奈川県厚生連 経営管理委員会会長）

理事 伊藤 能徳（JA新潟厚生連 経営管理委員会会長）

理事 堀尾 茂之（JA岐阜厚生連 経営管理委員会会長）

理事 丹下 和博（JA広島厚生連 経営管理委員会会長）

理事 中西 庄次郎（新任・JA徳島厚生連 経営管理委員会会長）

理事 西本 満俊（新任・JA愛媛厚生連 経営管理委員会会長）

理事 山野 徹（JA鹿児島県厚生連 経営管理委員会会長）

理事 二川 一男（有識者）

理事 三浦 進（有識者）

代表監事 平岡 武（新任・JA山口厚生連 経営管理委員会会長）

監事 吉田 聡（㈱JA新聞連 監査役）

監事 佐藤 佳二（全国共済農業協同組合連合会 常勤監事）

※ 網掛けは新任の理事・監事を示す。

## 【決議文】

## 決 議 文

本会は、JA 厚生連と緊密に連携し、厚生連病院が組合員・地域住民へ医療サービスを安定して提供できるよう、以下の項目について、全力で取り組むことを誓い、ここに決議する。

## 1. 円安・原油価格の高騰による物価高騰への対応について

厚生連病院の令和4年度の医業収入は増加したが、特徴として、円安・原油価格の高騰による物価高騰により、水道光熱費、診療材料費が大幅に上昇した。

医療は、公定価格であることから、光熱費や資材等の高騰が価格に転嫁できず、経営を圧迫することになる。

政府は、「電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金」を創設し、医療等に対する支援を推奨しているが、金額は十分とはなっていない。

このため、医療機関が物価上昇に対応できるよう診療報酬の引上げを含めて国へ必要な財政措置を求めていく。

## 1. 有償病床割合の見直しについて

新型コロナウイルス感染症や将来の新興感染症への対応としては、個室の絶対数の確保が必要となっているが、厚生連病院には、法人税の非課税措置を受ける要件として、「有償病床の割合を全病床の30%以内」とすることが課されている。

感染対策上、一定数の個室の確保が必要となっているほか、入院患者の個室需要が高まってきている状況にもある。

このため、令和6年度税制改正要望において、厚生連病院のその割合を厚生労働省告示基準（50%以内）とするため、JAグループ税制改正要望の重点要望として取り組んでいく。

令和5年7月25日

全国厚生農業協同組合連合会 通常総会

## 通信員だより

## 認知症カフェを開催しました

(JA北海道厚生連・苫前厚生クリニック)

苫前厚生クリニック（浦 英樹院長）では、7月4日に苫前厚生クリニックの2階多目的ホールにおいて第2回認知症カフェ「オレンジカフェとままえ」を開催しました。

この認知症カフェは、苫前町と本会の共催で開催し、苫前町の16名の皆様にご参加いただきました。

認知症への理解と対応についてのビデオ鑑賞、介護予防体操DVDを観ながら体操を実施し身体を動かしていただく時間も設けました。また、グループに分かれて認知症について話し合いを実施するなど2時間の時間を有意義に過ごしていただくよう企画しました。

参加者の方からは、認知症に関する知識を得ることができて、ワクワクする内容だったというご意見や、グループ討議は席替えをしてもよいのではないかというご提案もいただき、参加した皆様に真剣に取り組んで頂いた時間となったようです。今後も定期的を開催していきたいと思っています。



認知症カフェ開催の様子

(佐々木萌通信員)



## 新人研修「リフレッシュ研修」を開催して

(JA秋田厚生連・大曲厚生医療センター)

大曲厚生医療センター（三浦雅人病院長）の看護部では、新人のリフレッシュを目的に、研修の一環としてクッキング研修を開催しています。3年程前から新型コロナウイルスの影響を受け、実施を断念せざるをえない状況でしたが、今年は4年ぶりに開催することができました。

当日は21名の新人が院外に出向き、講師の指導の下、2種類のお菓子を作りました。グループは異なる病棟の新人同士で編成しましたが、すぐに打ち解け、手際よく役割分担を決めて、お菓子作りに取り組んでいました。講師の先生に「失敗しないお菓子作りのコツは作る前に材料を全部量っておくこと」とアドバイスを受け、初めてお菓子作りに挑戦する新人も何人かいましたが、どのグループもみんなで協力して作っており、その姿がとても微笑ましかったです。

参加した新人からは、「普段話すことができない他の病棟の人とも交流ができたので良かった」、「同期と話しができてリフレッシュになり、明日からの仕事が頑張れそうだ」などの感想も聞かれました。入職して約3か月が経ちましたが、慣れない仕事や環境に疲れも見え始め、色々な悩みを抱えて行き詰まる時期でもあります。そのような時期に、今回のリフレッシュ研修は新人にとって、とてもいい機会になりました。今後も、新人のリフレッシュ研修を継続的に行い、新人のケアに努めていきたいと思っています。



クッキング研修の様子

(斎藤美翔通信員)

## 通常総会を開催

(JA秋田厚生連)

JA秋田厚生連（小野地章一・代表理事理事長）は6月30日、JAビルで第75回通常総会を開き、令和4年度決算などいずれも原案通り承認されました。

### 1. 事業の概況

医療を取り巻く情勢は、厚生労働省において、令和6年度を始期とする「第8次医療計画」に関する検討が本格化し、医療圏の設定など、本県においても既に医療審議会において議論が進められています。

本会においては、新型コロナウイルスによる経営環境の変化を踏まえて策定した4か年の中期計画「第二期経営健全化計画」をスタートさせており、改めて「経営の健全化」を最優先に取り組んでいく必要性を再確認したうえで、収益規模に見合った体制の構築に向けて、業務改善や効率化の取組みを強力に推進してまいりました。

また、これまでの外来機能分化の取組みを一段と前進させる時機と捉え、各病院の外来受診者層について、診療科別、初再診別、単価帯別などの詳細な分析によって課題の抽出を行い、機能分化に向けた取組みを促進しました。

このような中、経営収支においては、国による新型コロナウイルス感染症対策としての医療機関支援の継続に、物価高騰対策としての支援も加わり多額の補助金を受け入れた結果、最終的な損益では剰余金を計上することができました。

### 2. 医療事業

「信頼とぬくもりのある医療の提供」を基本理念に、「健全な経営・財務基盤の確立」「地域医療構想を見据えた医療提供体制の見直し」等の事業方針に基づき、地域の基幹となる病院機能を発揮すべく運営にあたりました。また、新型コロナウイルスの感染拡大が継続する中、引き続き感染症への対応に取り組み、院内感染対策をはじめ患者への診療や検査のほか、自治体が行うワクチン接種事業への医療従事者の派遣など、行政施策と一体となって事業活動を展開しました。さらに、医療技術の高度化と専門性及び地域ニーズに対応するため、一部医療施設・機器の整備を行いました。

### 3. 保健福祉事業

#### ①健康管理事業

生活習慣病検診では、高齢者医療確保法及び健康増進法に基づく市町村及び事業所の健（検）診事業を県内JAや市町村等と連携を図り実施しました。特定健診、事業所健診等の一般健診やがん検診を中心とした単独実施検査の受診者数は、施設内住民健（検）診等の大幅な縮小により、全体的に大幅な減少となりました。また、人間ドックにおいては、感染対策を考慮した肺機能検査の中止等により、日帰りドック、宿泊ドック等を合わせ、計画を下回る受診者数となりました。

#### ②高齢者福祉事業

訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所において、組合員及び地域住民の多様なニーズに応えるため、医師やJA等の介護保険サービス事業者、地域包括支援センター等と連携を図りながら積極的な取組みを行いました。また、介護予防受託事業の実施、介護保険施設との連携等にも取組みました。

今後も厳しい医療情勢の中、JAの医療機関として、また地域医療を支える公的医療機関として、その使命と責務を果たしていけるよう努めてまいります。

（斎藤美翔通信員）

## ダイナミックフェア2023に参加

(JA茨城県厚生連)

JA茨城県厚生連（長谷川博史・代表理事理事長）では、7月1～2日の2日間、全農いばらき農機総合センター特設会場で開催された「第47回農機・生産資材大展示会ダイナミックフェア2023」に参加しました。

新型コロナウイルスの影響によってここ数年中止となったり、または開催されても感染予防対策のために様々な制約が設けられるなどの状況が続いていましたが、今回は久々に制約等が無い開催となり、たくさんの来場者が訪れ、以前のような盛り上がりを見せておりました。

コロナ禍での開催においては救護班のみとしての参加でしたが、今回は血压測定と健康相談も実施し、両日とも気温が30度を超える非常に暑い中にもかかわらず、2日間合わせて180の方が集まり盛況となりました。

本会のブースを訪れた方からは、「今回のフェアで久々に健康相談を受けることができありがたい。コロナに対してまだ不安を感じるが、今後もこのような機会を作ってほしい」と感謝の声をいただきました。



健康相談を行うJA茨城県厚生連スタッフ

(酒井一彦通信員)



## 真鍋診療所リニューアルオープン

(JA茨城県厚生連・土浦協同病院附属真鍋診療所)

JA茨城県厚生連(長谷川博史・代表理事理事長)が運営する土浦協同病院附属真鍋診療所が、7月3日、リニューアルオープンとなりました。平成29年3月に旧土浦協同病院の健康管理センターを利用し開業となりましたが、建物の老朽化により厚生連研修センター1階に移転することになりました。

リニューアルした診療所内は、温もりが感じられる色調となり、患者がより安心して診察を受けられる空間へと変わりました。

これからも、多くの地域住民の方々に利用されるよう努めてまいります。



リニューアルオープンした真鍋診療所

(酒井一彦通信員)

## 院内保育所にて野菜の苗植えを行いました

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

5月26日、6月7日に相模原協同病院（井關治和病院長）は、院内保育所にて野菜の苗植えを行いました。当院の院内保育所では、自然に親しみ実体験を通して「食」に対する豊かな心を育てていくことを目的として「食育・栽培活動」を行っています。

野菜について知識を深め、自分達で苗植えをする事で、興味関心を持てるようにすること。野菜の生長に期待を持ち、水やり等の活動を楽しみにできるように、子ども達の気持ちに寄り添いながら体験することを大切にしています。また、JA相模原市の職員の方々も来園し、子ども達に苗の話や植え方の指導をしていただきながら、一緒に苗植えを楽しみました。



JA職員から指導に興味津々



さつまいもの苗植え

(生沼貴彦通信員)

## BSC スプリングレビューを開催

(JA神奈川県厚生連・保健福祉センター)

6月16日、20日に保健福祉センター（野田吉和センター長）は、この度BSC スプリングレビューを開催しました。BSC（バランススト・スコアカード）とは、トップが示したミッションやビジョンを、職員一人ひとりの日常業務に落とし込み、目標意識をもって戦略的に行動することを促進するためにおこないます。

県内に点在する事業所の所属長が会場に集まり、野田センター長による基調講演の後、令和5年度の目標取り組みについて発表がありました。

2日間に渡り多くの職員が参加し、各部署の発表について意見交換を行い、盛況のうちに終了となりました。



レビューの様子

(生沼貴彦通信員)



## 管理部総合職2年目職員研修会を開催しました

(JA長野厚生連)

JA長野厚生連（洞和彦・代表理事理事長）は6月15日に管理部総合職2年目職員研修会を開催し、入職2年目の総合職職員5名が参加しました。この研修は、課題発見、問題解決のマインドセットの醸成、上司先輩や多職種と連携するためのコミュニケーション力を身につけることを目的としています。

参加者は事前にeラーニングで学習し、当日は講師に株式会社日本経営主査の田中梨央氏を迎え、チームで協働するワークの体験や自身のコミュニケーションタイプを理解し自己分析するとともに他のタイプの人とのコミュニケーションについて考えました。後段には先輩職員からサプライズでメッセージを受け取り、先輩の思いを感じ自分が職場で果たすべき役割について再認識する機会となりました。

参加者からは「今までにないタイプの研修内容で、実際に自分達で考え意見を出しながらやっていくのが面白かった」「これからの自分の仕事に対する姿勢を考える機会となった」などの声が寄せられました。同期とは久しぶりの再会となり、休憩時間中はお互いの近況報告等の話で盛り上がりました。次回は12月に開催予定となっています。



グループワークの様子



先輩からのメッセージを受け取った様子

(山岸愛通信員)



## 長野県A・コープから車いすを寄贈いただきました

(JA長野厚生連)

JA長野厚生連（洞和彦・代表理事理事長）は、長野市のJA長野県ビルで車いすの目録贈呈式を6月27日に行いました。この取り組みは、(株)長野県A・コープの誕生祭企画の「車椅子を贈ろう」募金の取組みのひとつとして、平成14年度から当会施設へ68台の車椅子を寄贈いただいております。

長野県A・コープの山崎進代表取締役社長は「農家組合員をはじめとした地域住民の命と健康を守る最前線で奮闘されていることに深く感謝いたします。今年も組合員のお客様から約16万7千円の募金をお寄せ頂きました。末永くご愛用頂ければ幸いです」と挨拶されました。

また、洞和彦代表理事理事長は「車いすが一番病院で必要とされている物で、大変嬉しく思います。A・コープの皆様には、我々も協力できる所は協力していきたいと思っております」とお礼の言葉を述べました。

令和5年度は、富士見高原医療福祉センター老人保健施設すずたけ、下伊那厚生病院へ寄贈いただきました。地域の皆さまからご配慮をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。今後も皆さまへ安心・安全な医療を提供できるよう努めてまいります。



目録贈呈の様子  
(左から山崎代表取締役社長、洞代表理事理事長)

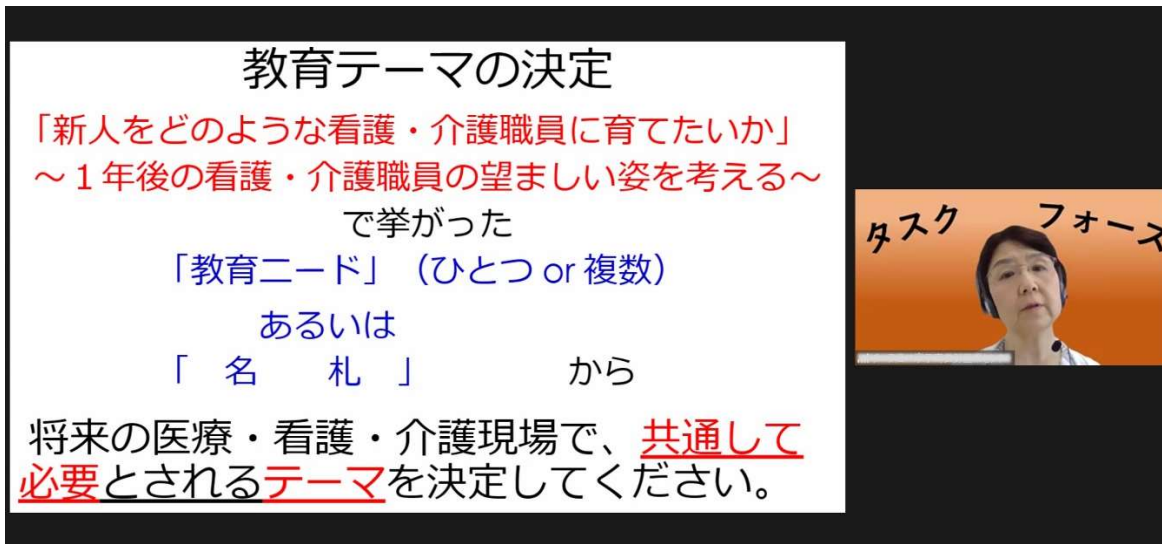
(山岸愛通信員)

## 2023年度 幹部看護・介護職員育成研修会を開催しました

(JA長野厚生連)

JA長野厚生連(洞和彦・代表理事理事長)は、6月28日～30日の3日間、「幹部看護・介護職員育成研修会」をオンライン形式(ZOOM)で開催し、30名が参加しました。この研修会は、JA長野厚生連の看護・介護の次世代を担うリーダー育成を目的とし、各事業所から推薦された幹部候補の職員を対象に開催しています。

ワークショップ形式で行う本研修は、主題を「新人教育」とし、「新人をどのような看護・介護職員に育てたいか」というテーマについて、グループ毎に熱い議論を交わしながら、新人教育に関するテーマを決定し、それに沿う目標を立て、達成するための方略や評価の手法について考えました。オンライン形式のため、グループワークではGoogleスライドやスプレッドシート等のツールを用いて意見を共有しました。各セッションの全体発表では、タスクフォースからの助言や参加者からの質問等、活発な意見交換がされました。



**教育テーマの決定**

「新人をどのような看護・介護職員に育てたいか」  
～1年後の看護・介護職員の望ましい姿を考える～  
で挙げた  
「教育ニード」(ひとつor複数)  
あるいは  
「名 札」 から

将来の医療・看護・介護現場で、**共通して必要**とされる**テーマ**を決定してください。

タスク フォース

研修会の様子

また研修中は、日本農村医学研究所の柳澤和也主任研究員による「体のメンテナンスについて」のご講演もあり、日常生活の中に取り入れられる簡単なストレッチなどを実践し、リフレッシュの時間となりました。



体のメンテナンス講義

研修の運営に携わるタスクフォース・事務局では、参加者が研修にスムーズに参加できるように、当日を迎えるまで何度も打合せを重ねました。慣れないパソコン操作に戸惑ったという声もありましたが、「教育計画を細かく論理的に立て、評価についても勉強でき、貴重な時間だった」「タスクからの助言をもらいながらではあったが、自分の考えや思いを言語化し、教育的に関わることへの根幹を確認できた」「グループワークを通して、自分では思いつかないような意見や考え方を知ることができた」と有意義な研修であったという声が多く聞かれました。

参加者は、研修で学んだ知識・スキルを活かし、それぞれの職場での課題を抽出し、1年を通して改革に取り組みます。この研修を通じて、次世代リーダーへの成長を期待しています。

(山岸愛通信員)

## 南長野医療センター篠ノ井総合病院 新病院整備第2期工事 竣工式

(JA長野厚生連)

JA長野厚生連（洞和彦・代表理事理事長）は7月8日、長野市の南長野医療センター篠ノ井総合病院（宮下俊彦病院長）で新病院整備第2期工事 北棟新築工事の完成を迎え、地元行政関係者、JAおよび厚生連の関係者、工事関係者の方々のご臨席のもと竣工式を執り行いました。

第2期工事は、「北棟 新築工事」と「中央棟 改修工事」を計画しており、平成29年（2017年）10月の第1期工事（本館棟新築工事）から進めてきた新病院整備事業が完了します。

このたび竣工した北棟は、地下1階・地上6階建、延床面積約8,676.23㎡のRC造で、「全室個室化」による患者プライバシー確保及び感染防止対策機能の充実。また、複数の棟に分散していた3病棟を3～5階の新病棟に集約することによる患者利便の向上及び医療従事者の負担軽減。2階には人間ドック等を行う健康管理センター、1階にはリハビリテーション機能訓練室の移設などによる機能充実。また、同じく1階にレストランやコンビニエンスストアなど病院アメニティの充実などを計画しています。



竣工式の様子



式典のなかで千國茂建築委員会委員長は「今回完成した北棟は、病院理念である『患者本位の医療の実践』を果たすため様々な工夫がされており、患者さんにとって便利で快適な療養生活を送っていただくことができる。今後予定している既存の中央棟の改修工事を進め新病院建設工事の総合竣工に向けて進めてまいります」。また、洞和彦代表理事理事長は「今後もニーズにお応えすべく様々な事業に取り組み、高度急性期医療を中心とした病院機能充実を推し進めてまいります」と挨拶しました。

第二期工事は、引き続き中央棟の改修工事を行い、完成は令和5年（2023年）12月の予定です。今後も地域の皆様が安心して質の高い保健・医療・福祉を受けられるよう努めてまいります。



完成した新病院

(山岸愛通信員)

## 管理部総合職3年目職員研修会を開催しました

(JA長野厚生連)

JA長野厚生連（洞和彦・代表理事理事長）は7月10日に、管理部総合職3年目職員研修会を行いました。この研修は、社会人として困難な状況に直面した時に、実際に問題解決に向かえるマインドセット（ATCモデル）を養い、希望を持って将来の目標に対し積極的に向き合える態度（VIA）を形成する事を目的に、開催しています。

集合形式で、講師には（株）ビジネスコンサルタントの藤井 包起氏を迎え、レジリエンス（いかなる状況でも最善・最良の考え方を模索し、成果につながる行動を選択する力）プログラムを学びました。今回の研修では、レジリエンスセルフチェックで自己分析を行い、演習を通じて互いの考えを共有し合いました。

参加者からは「視点を変えることで物事は多方面から考えられると気付けた」や「仕事の集中力や、生きる上でより楽しんで生きるために考え方が参考になった」などの声が寄せられました。全3回の開催で次回は10月を予定しています。



研修会の様子

(山岸愛通信員)

## 胸部低線量CT検診車を導入

(JA長野厚生連)

一般財団法人日本成人病予防会では、6月30日、胸部低線量CT検診車を納車しました。本車両は、同会が競輪の補助金を受けて整備し、同会長野県支部と肺がん検診事業における委託契約を締結したJA長野厚生連健康管理センターにおいて、8月から運用を予定しています。

JA長野厚生連は、平成13年度から23年間にわたり巡回CT検診を実施しており、令和4年度には、年間11,028人の検診を実施しました。また、平成29年から令和3年の5年間で31人のがんを発見し、その役割を果たしています。

新たに整備された胸部低線量CT検診車は、CT装置の機能が強化され、被ばく量を低減しながら、画像精度を向上させています。また、受検の際、息を止める時間が20秒から5秒程度となり受検者の負担が軽減されました。

JA長野厚生連では、地域住民、JA組合員の肺がん予防に寄与し、これまで以上に質の高い検診を提供いたします。



胸部低線量CT検診車





正面



内部



背面



左面

(山岸愛通信員)



## エコ活動への取り組み

(JA静岡厚生連・JA静岡厚生連静岡厚生病院)

JA静岡厚生連静岡厚生病院（水野伸一病院長）では、看護部自治会を中心に「エコキャップ」と「コンタクトレンズ空容器」を回収する『エコ活動』を実施しています。

今回も取り組みの一つとして静岡サレジオ高等学校の有志で活動している“チームく&i>”へ回収したコンタクトレンズの空容器を引き渡しました。

空容器は今後、アイシティ店舗へ持ち込まれ、アイバンクの寄付等につながります。当院では院内に回収ボックスを設置し、引き続き「エコ」を意識した取り組みを実施していきます。



エコ活動への取り組み

(望月俊宏通信員)

## 静岡県厚生連看護専門学校建設工事起工式を実施

(JA静岡厚生連)

JA静岡厚生連（荒田庄治・代表理事理事長）は6月14日、静岡県厚生連看護専門学校（藤田美保子学校長）新校舎建設工事の開始にあたり起工式を実施しました。

新築移転場所である浜松市中区にて、関係者約30名が出席し、無事に工事が進むよう祈願しました。

経営管理委員会青山吉和会長は「看護専門学校は老朽化や耐震性などの様々な問題を抱えていましたが、主たる実習病院の遠州病院近郊に新築移転することで、学生の利便性や学習環境の向上と、地域医療の一助となる看護師をこれまで以上に輩出することが期待できる。」と挨拶しました。

2024年の開校をめざし、建設工事が始まります。



起工式の様子



(望月俊宏通信員)

## クラスター発生時の看護師派遣に対する 感謝状をいただきました

(JA愛知厚生連・豊田厚生病院)

豊田厚生病院（服部直樹病院長）では、6月22日、愛知県看護協会より新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した施設へ看護師を派遣したことに対し、感謝状をいただきました。愛知県看護協会は2020年8月より愛知県の委託を受けてクラスター発生時の看護師派遣事業を行っています。今回、愛知県内の医療体制がひっ迫するなか県内病院へ感染管理認定看護師を派遣し指導にあたったことが高く評価され表彰を受けました。これからも地域医療に貢献できるように努めてまいります。



病院長・看護部での表彰報告の様子  
感染管理認定看護師をクラスターが発生した県内病院へ計8回派遣しました

(井桁千聡通信員)



## 看護師の特定行為研修修了式と開講式を行いました

(JA愛知厚生連・海南病院)

海南病院（奥村明彦病院長）は看護師の特定行為研修「術中麻酔管理領域」「外科系基本領域」の指定研修医療機関です。6月30日に特定看護師第2期生の修了式を行い3名の看護師が修了しました。これにより、海南病院内で活躍する特定看護師は9名となりました。また、7月3日には特定看護師第3期生の開講式を行い、新たに1名の特定看護師を育成していきます。

<看護師の特定行為とは>

特定看護師の「特定行為」は、21区分38行為あります。

この行為を実践するために必要な高度知識と技術を指定機関で学びます。特定看護師は、本来医師が行う医療行為の一部を医師があらかじめ作成する「手順書」のもと、看護師の判断で実施することができます。



6月30日に行われた第2期生修了式



7月3日に行われた第3期生開講式

(井桁千聡通信員)